



## 初等部だより 10月号

鎌倉女子大学初等部  
平成25年9月30日  
第7号

# 秋の訪れに思うこと！

部長 松本安博



秋の訪れとともに、いつしか虫の鳴き声(羽音)が、リーンリーンと夜の静けさに響く季節となりました。各ご家庭におかれましては、季節の変わり目、どうぞ、お身体をご自愛くださいませ。

9月8日(日)の早朝、2020年のオリンピック・パラリンピックが東京で開催されるとのニュースが伝えられました。災害復興の道を歩む今、複雑な思いの方もいらっしゃると思いますが、明るいビッグニュースとなったように思います。秋は、「芸術の秋」や「読書の秋」、「食欲の秋」など、いろいろな言い方がされます。しかし、今年の秋は、「スポーツの秋」が大きく印象付けられたように思われます。

さて、<sup>よき</sup>このように心躍る秋ですが、ふと私の心を過るものがあります。それは、<sup>あふ</sup>私自身の反省でもあります。現代社会の溢れんばかりに満たされる物に囲まれ、快適な時を過ごしているうちに、私の中で季節感が薄くなってきているように思われることです。巡り来る四季は、季節の折々に文化や伝統との出会いを促し、自分づくりをゆったりと見守ってくれていることを、私は忘れかけているように思えます。

過日、いつものように正門を出て歩道橋を渡り、バス停に向かって階段を降りようとした時のことでした。私の目にうっすらと赤みがかかった、円くて浮き出るような光が映りました。そのあまりの美しさに、私が立ち止ると、その私を<sup>見る</sup>か、横を歩いていた二人の女生徒も足を緩めました。私が思わず、「満月に見えるのだけど、本当に満月かな。」と、

<sup>つぶや</sup> 呟きますと、二人は顔を見合わせ、「満月は明日じゃないですか。」「満月じゃないみたい。」と、返してくれました。眼鏡をかけても不便のある私です。私は、もう一度目をくりくりさせて月を眺め見ました。以前は、よく夜空を眺めていたものでした。久しぶりにバスを待つ間も、家路への道すがらも、雲一つかかっているその月を眺めていました。

実は私、数年前まで「中秋の名月」と「満月の日」は必ず一致するものと思い込んでいました。しかし、決してそうとは限らないことを知りました。そのきっかけは、「中秋の名月」と「仲秋の名月」、どちらが正しい表記か調べたときのことでした。そして、もしかすると今夜は「中秋の名月」かもしれないと思い、調べましたところ、二人の女生徒が言ってくれた通り、その翌日が、「満月の月」でもあり、「中秋の名月」でもあることが分かりました。

皆様もご存じのように、お月見に<sup>まつ</sup>纏わって「十三夜のお月様」があります。ともに秋の収穫や豊作、私たちの健康への祈りと感謝の念が込められているとのこと。そして、できることなら、両方のお月見をすることが「よし」とされているとのこと。

<sup>ちな</sup> 因みに、今年の「中秋の名月」(十五夜)は9月19日で、「後の月」(十三夜)は10月17日です。もし、2020年のスポーツの祭典が、前回大会と同様に秋開催になるようなことがありましたら、ウサギの餅つきをシルエットにした美しい光が競技場を包み、大会を盛り上げているかもしれませぬ。

西暦	中秋の名月(十五夜)	満月の日	後の月(十三夜)
2018	9月24日	9月25日	10月21日
2019	9月13日	9月14日	10月11日
2020	10月1日	10月2日	10月29日